

留学体験記 1

- 留学先大学：ケント大学
- 留学期間（実際の現地滞在期間）：2023年5月～2024年4月
- 学部・学科：社会学部社会学科
- 留学時の学年：2年次

授業について

ケント大学社会学部のモジュールでは、1つのモジュールに対してレクチャーとセミナーの2つの授業があります。セミナーの前には、Moodle(武蔵大学でいう3S)というサイトから、セミナーリーダーが提示した資料(学術資料1つ～3つ)をセミナー前に読みました。Modern cultureという授業では、社会学者のレイモンド・ウィリアムズやマックス・ウェーバー、カール・マルクスが書いた資料を英語で読み解くのにとても苦労しました。ネイティブの学生でも資料が難しいと言っていたので、日本語の文献を探して読むこともありました。初めは1つの資料を読み終えるのに最低2～3時間かかりました。1学期目は資料を読み終えることができないまま、セミナーに出席することもありました。そのため、資料を読む時間、エッセイを進める時間、そして友人と出掛ける時間を確保するのが難しかったです。終わらなかった資料や授業の復習が週末まで差し掛かることが多々ありました。2学期目には、資料を読むためのコツを掴んだのか、あまり苦労することがなかったです。

授業で苦労したこと

2学期目には初めてのグループプレゼンテーションがあり、同じグループの学生とコミュニケーションを取ることに苦労しました。集まって作業している時も、今何をすべきなのか分からない時間も多々あり、このままじゃいけないと思い、「実は交換留学生で何をすればいいか分からない時があるから、具体的に指示を出してほしい」とお願いしたこともありました。また、セミナーの授業の際に、評価のためにセミナー内での発言率を評価に取り入れることがあり、毎セミナー最低1回は発言しようと心がけていましたが、全員ネイティブスピーカーの前で発言することはとても緊張しました。

留学中に困難だったこと、またどのように乗り越えたか

「英語は流暢じゃないし、友達できなかったらどうしよう」という不安もあって、留学当初は毎日、自分の感情が不安定でした。それでも日本語を話すことだけはしたくないということと、

自分がどうしてイギリスに来たのかの理由を思い出して、友達を作る努力をしました。一方で友達ができたものの、みんなの会話のスピードが速くて私が何か言おうとした時には次の話題に移っていたり、ただただみんなの会話を聞いているだけの自分に対して「みんなは私といて楽しいのかな?」「なんでこんなに喋らずにずっと黙って聞いているだけなのにみんな私と友達で居てくれるんだろう」と自分の語学力に対しても悩みました。そんな中、ドイツ人の友達に相談をしたところ、「あなたがいるおかげで、私の留学生活に、たくさんの喜びや幸せをもたらしてくれているよ。あなたなしでは、こんなにも素晴らしい経験にならなかった」と、とても優しく心温まる言葉をかけてくれました。その後、考え方が前向きになり、旅行先で出会った人に積極的に話しかけたり、留学自体がやっとならんと実感できるものになった気がします。

留学を通して得たこと

留学中に辛いことも悲しいこともありました。それ以上に様々な素敵な出会いもありました。日本から知り合いもいない、カンタベリーという留学前まで聞いたことのない土地に来ましたが、イギリスで1年間過ごす中で、「親友」と呼べるような友達にも出会って、イギリスをまた訪れた時には、私を迎え入れてくれる人もいて、それだけでも私にとっては留学をする価値があったと思います。1年間海外で1人で暮らして、友達ができて、またイギリスに来たいと思っている自分が今ここにいることから、留学して良かったと思っています。



留学体験記 2

- 留学先大学：メディシン・ハット大学
- 留学期間（実際の現地滞在期間）：2023年9月～2023年12月
- 学部・学科：人文学部英語英米文化学科
- 留学時の学年：4年次

授業について

“Gender Studies”

男女平等社会やLGBTQ+といった世界で注目を浴び、日本でも影響が出ている話題の知識を身につけ、今後の世界を生きる上での教養、進むべき道筋、日本が採るべき選択を学ぶため、このコースを履修しました。授業を受けているだけでもジェンダー平等やLGBTQ+が生活の中に溶け込み、日常化していることを目の当たりにしました。授業形態としてはインストラク



ターからの一方的な授業だけでなく、ディスカッション形式の授業が多く展開されたため、1グループ3～4人になり、各グループに割り当てられた話題について5～10分間話し合い、話し合った結果をクラス全体に共有する時間が設けられていました。ある日の授業では、50分の授業中40分以上がディスカッションや情報共有に対するリアクション、追加コメントとなり、インストラクターが入る余地が全くなかったという事もあるくらい、白熱したものになっていました。

“Communication in the Workplace”

大学卒業後の就職先や海外赴任、将来日本以外の人と仕事をする上での礼儀作法、マナー、メールのやり取りの仕方などを学ぶため、このコースを履修しました。実際、異文化であるがゆえにメールのやり取りやプレゼンテーションで使用する手法など、日本のそれらとは異なる部分を肌で感じる事が出来ました。学修内容としては、現在の経済形態がどの様なものか、その経済形態のメリット、デメリット、今後直面するであろう課題点の理解とプレゼンテーションの手法について学びました。聴衆の人数、会場の形、所要時間、身だしなみのそれぞれに最適な手法、抑えるべきポイントを学び、実践として合計3回のプレゼンテーションをクラスメイトの前で行いました。

授業で苦労したこと

これらのコースを履修する中で苦労したことは、コミュニケーションスピードと課題の重さでした。まず、コミュニケーションスピードについてですが、言わずもがな、授業中に行われる会話はネイティブ英語として速いだけでなく、カナダ・インド・アフリカのアクセントがあることで授業に付いて行くだけで手いっぱい発言など全く出来ませんでした。しかし、徐々に慣れていくうちに発言が出来るようになり、話している内容の理解が早くなり、最後の方ではクラスメイトから「自信が付いたね」と言われるようになりました。次に課題の重さについてですが、上記の通り、授業がすべて英語で行われるうえにレポートやテストで使われる言語も英語であるため、参考文献の内容理解、試験時間内で回答しないといけない点に苦労しました。留学を終えた今となっては、スピーキング力やリーディング力向上につながったと実感しています。

印象に残った経験

バンフ、ドラムヘラー、カルガリー、イエローナイフといった場所に赴き、そこでしかできない経験をしました。特に印象深かったことは、ドラムヘラーにある古生物博物館、イエローナイフでのオーロラ鑑賞が挙げられます。これらの場所に赴く際の準備など学習面以外での人生経験を多く積むことが出来たと感じています。

留学を通して得たこと

この留学を通して得たことは、「何事もとりあえずやってみる」ことです。留学先にいても何か行動しなければ意味がありません。結果的に日本にはない物事を経験できたり、ずっと繋がっていたい友人ができるなど、多くのものを得ることが出来ました。

